

プール学院報

愛と奉仕

14th
POOLE GAKUIN
FOUNDED 1879

第86号

2018年2月・3月
発行

学校法人 プール学院

〒544-0033

大阪市生野区勝山北1-19-31

TEL.06-6741-7005

FAX.06-6731-2431



プール学院大学・プール学院大学短期大学部 クリスマス礼拝 2017年12月14日



CONTENTS

理事長・学院長挨拶 1

[大学・短期大学部]

教職員メッセージ 2

秘書科の取り組み 4

幼児教育保育学科

の取り組み 5

[中学校・高等学校]

校長挨拶 6

英国1ヶ月語学研修 7

生徒メッセージ 8

卒業生紹介 8

クラブ等の成果 9

主な行事 9

キリスト教の

メッセージ&コラム 10

同窓会だより 11

法人だより 12

学院人事 12

編集後記 12

ご挨拶

混沌への光

理事長・学院長 杉山 修一

40年ほど前「混沌への光」(左近淑・ヨルダン社)という一冊の本が出版された。その中に「創世記の物語は世界がどのように成立したのかではなく世界と人間の存在の確かさがどこにあるのかという当時の緊急かつ根源的な課題への答えなのだ」という記述に神学生であった私は強く心惹かれた。紀元前6世紀、イスラエルは捕囚期を迎え、国家は滅亡し、体制は崩壊していった。このような不確かな混沌とした時代を創世記の記者は「暗闇が淵をおおい、強風が水面を吹きまくっている」という言葉で表現した。今日の私たちの時代も何が正しく、何を根拠に生きていけばよいのか個人的にも世界的にも不確な、混沌とした時代を迎えている。暗闇と強風の吹く時代を迎えているということが出来る。

この時代の中でキリスト教を標榜する私たちの学校も少子化と日本社会の飽くことなきグローバル社会に名を借りた競争原理によって翻弄され、本来あるべき秩序、見つめるべ

き価値が暗闇の中に置き去りにされ、混沌としてはいないか。何のためにキリスト教学校は存在しているのかとの問いを忘れるようなことがあってはならない。

創世記の記者は私たちに語る「神は言われた『光あれ。』こうして光があった。」。神の最初の言葉、「光あれ」によって世界は昼と夜を分ける秩序が与えられた。混沌とした闇の世界にこの言葉は告げられ、やがてその言葉は「光」そのものであるイエス・キリストとなってこの世に現れた。この「光」そのものを教育の根幹に据えていればこそあらゆる混沌、不確かさの中にあっても私たちは希望を持つことができる。キリスト教学校にあっては、世界のいかなる混乱も社会のあらゆる問題もすべては神の「光あれ」との根源的言葉、秩序と確かさに基づいて解決されなくてはならない。プール学院はこの根源的な希望である「混沌への光」に照らされてこれからも生きていく。



プール学院らしさ —FD・SD研修会に参加して— プール学院大学

プール学院大学で造形や図画工作関連の教科を担当しております飯田真人です。この学院報にプール学院大学として掲載されるのも今回で最後です。泉ヶ丘キャンパスで大学と短期大学が合同で開催したFD・SD研修会のレポートをさせていただきます。

最近、学校では「アクティブ・ラーニング」という言葉をよく耳にします。文部科学省はこれからの学習で主体的・対話的で深い学びの実現を目指しています。私の担当している造形や図工の授業でも美術作品を鑑賞するときや授業で描いたり作ったりした作品を発表する際にそれぞれの意見を出し合い議論することがあります。

議論する際に、いろいろなことに対して、否定的な意見や、ダメなところ、悪いところを見つけて指摘するのは、比較的簡単なことです。自分とは直接関係なかったり、責任がなかったりするようなことではなおさらです。批判だけならちょっとした知識があれば誰でも評論家みたいなことは言えてしまいます。反対に、良さを見つけてほめたり高い評価をしたりすることは難しいことです。ほめるということは、ただ単に「いいね」だけを言うのではなく、どこがどのように良いのかをしっかりと相手に伝えなければなりません。そのためには、相手に一歩でも二歩でも近づかなければなりません。また、結果だけで判断するのではなく、これまでの取組や過程もしっかりと見て

いかなくはなりません。もしも、残念な点や足りなかったところがあったとしても、良い点をしっかりと押さえておけば「こうすればもっとよくなるよ」ということで前向きにアドバイスをすることができます。物事が気持ちよく前に進むと思います。

さて、プール学院大学と短期大学部には、「IR・FD」と言う学長を長として組織された委員会があり、大学及び短期大学部の教職員が教育力や運営力等の資質向上を目的に授業アンケートや授業見学、研修会の企画や計画を行っています。そして「FD・SD研修会」と言う研修会を前期と後期に年2回行っています。委員会名であるIR・FDとは、「Institutional Research・Faculty Development」の略で「『大学の教育の質向上のため、学内データを収集・分析し、改善施策を立案、施策の検証等をおこなうこと』・『大学職員の教育能力開発のための組織的取組』」です。また、研修名であるFD・SDとは、「Faculty Development・Staff Development」の略でSDは「大学職員の組織運営能力向上のための取組」という意味があります。

2017年度の研修会のテーマは、「来年度から大学と短期大学はそれぞれ新しい道を進もうとしている。プール学院の高等教育は何を目指し、何をしてきたか、また今後どのように生かしていくかについて考え、もって両学の発展に資する。」ということから「『プール



学院らしさ』とは」でした。

前期研修は9月20日(水)に開催され、テーマである『「プール学院らしさ』とは』を基に、これまでお世話になった中村博武先生(名誉教授、短期大学部、幼児教育保育学科)、中島智子先生(名誉教授、国際文化学部、国際文化学科/子ども教育学科)、森定玲子先生(元准教授、国際文化学部、国際文化学科)、現職の先生である永井利三郎先生(教授、教育学部教育学科)、卒業生でもあり現職員でもある佐々木優先生(入試広報課職員、国際文化学部、国際文化学科卒業生)の以上5名の方からそれぞれの視点でこれまで泉ヶ丘でのプール学院が歩んできた歴史や培わ

れてきた教育、今後求められる学校の在り方、現在の大学や学生が抱える課題などについて講話をいただきました。参加者には研修の感想と「私が考える“プールらしさ”」のレポートの提出があり、後期の研修の際、配布されたレポートの抜粋資料では「教職員がそれぞれに意見の違いはあるが、「学生にとって・・・」と考え、最善の方法を見だしていく姿勢を大学全体が共有している」などをはじめ、個の尊重とチームワークの良さを多くの教職員が感じていることが伝わってきました。その一方で学生の自立を促す教育への課題も記述されていました。

後期研修は11月22日(水)に開催され、前期の講話を受けて「プール学院らしさ」について8名ごとのグループに分かれて協議を行いました。私が参加したグループでもいろいろな意見が出ていましたが、特に「前期の研修では良い話を聞いた。“プール学院らしさ”とは、皆の共通した意見として、『アットホームな雰囲気、丁寧である、先生方が親身である』等であり、小さなコミュニティであるからこそ出来ることである。“小さな町の小さな教会”と言う隣人愛、助け合い、あたたかく接するなどのイメージ」という意見が印象に残っています。

他のグループにおいても、「一人一人を丁寧に対応していることは、キリスト教精神である『良き隣人たれ』・『異質のものを排除しな

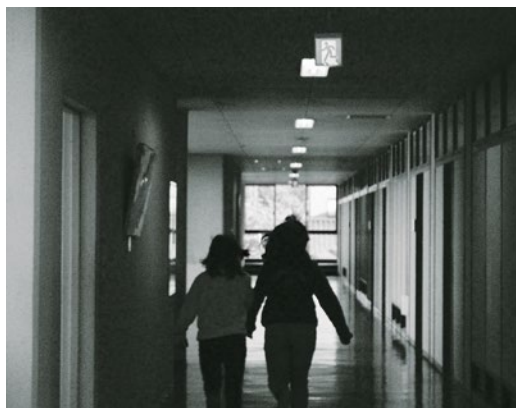


い』という教えが実践されている。」、「小規模大学であることから教職員と学生の距離が近い。」、「親身、アットホーム、丁寧といったキーワード」、「規模が比較的大きい大学との違いは、学内の派閥もなく他分野の教員と交わることができるという意見が挙げられ、その根底にはキリスト教の博愛精神がある。」などの意見が出ていました。短い時間ではありましたが、各グループごとに充実した協議ができました。

このように、立場や分野の違った教職員がグループになっても、共通の認識で意見を出し合うことができるのも「プール学院らしさ」であり、この学院の素晴らしいところだと改めて感じる事ができた研修会でした。来春からは別々の法人となりますが、このような交流が続けられたらと思います。

最後に、いろいろな学生に「プール学院らしさ」について聞いてみました。多くの学生が必ず語ってくれたことは、「緑に囲まれ四季折々の変化が見られる自然環境のいいキャンパス」、「少人数ゆえの学生同士のつながりや学生と教員の近さ」、「授業でわからないところがあっても気兼ねなく質問することができ困ったことや悩んでいることでも相談できる」でした。私ももちろん同感です。この節目の年にとっても有意義な研修に参加できたことに感謝したいと思います。

写真は、Yurie Hamataniさん(教育学部教育学科3年)が「プール学院らしさ」をテーマに撮影してくれました。



短期大学部 秘書科の取り組みについて

秘書科ではアクティブ・ラーニングを積極的に導入しています。その取り組みの中から、今回は4名の学生の声をご紹介します。

秘書科プロジェクト 「秘書の専門分化—国会議員秘書から学ぶ」 に参加して

秘書科1年次生 川端 麻友

現役の国会議員秘書のお話を伺うため、8月27日から29日に、東京・永田町の議員会館と国会議事堂(衆議院)へ行きました。1日目は永田町周辺を散策し、2日目は議員会館で国会議員と一緒に仕事をされている3名の方にお話を伺いました。秘書職に就かれた経緯、秘書として働くうえで最も大変な仕事、秘書職のどのようなところにやりがいを感じていらっしゃるのか、の3点を質問しました。自分の活動が社会のために、国のためになっていると実感できるとおっしゃっていたことがとても印象に残りました。

ニュースで国会の話題があると、お話を伺えた秘書の方々、国会を支える方々のことを思い浮かべ、興味深く見るようになりました。



国会議事堂を背景に(右から4番目)

海外留学

秘書科1年次生 佐藤 舞

2017年9月から半年間、ニュージーランドのワイカト大学(The University of Waikato, New Zealand)に留学しています。現在(11月末)でようやく3ヶ月が経過し、留学生活もあと残り半分というところですが。こちらにきて来て初めの頃は不安ばかりで悩んだ日もありましたが、今では慣れてきました。授業は少人数で行っているため、分からないことがあれば先生が親切に教えてくれます。放課後はよく図書館に行って勉強したり、英語のDVDを見ています。今では外国の友達もたくさんでき、毎日がとても充実しています。

ホストファミリーの方はとても優しいです。よく8歳と4歳の孫が遊びに来るので一緒に遊んだり会話をしたりします。まだ幼いにも関わらず、私のために分かりやすく話してくれるのでとても助かります。ホストマザーとは毎日1日の出来事や今後の予定のことなどを



ホストファミリーと一緒に(右)

話します。日が経つたびに会話が増えていっている気がします。

インターンシップに参加して

秘書科1年次生 林 あぐり

8月21日から25日の5日間、インターンシップに参加しました。研修先は関西国際空港の隣にあるホテル日航関西空港のビュッフェ「ザ・ブラッスリー」でした。研修内容は主に接客で、テーブルのセッティングや食器の片づけ・その補充などを担当しました。インターンシップ先が空港に隣接されていますので、お客様の約7割は海外の方々です。当然、ほとんどが英語での接客でした。拙いながらも一生懸命対応できたと思いますが、より一層、英語の力を向上させたいと強く実感しました。

今回のインターンシップで得た経験を、自分の将来を考えるときにぜひ活かしていきたいと思えます。



インターンシップ先の制服姿で

大学猫プロジェクトの取り組み

秘書科2年次生 野口 晴菜



泉ヶ丘キャンパスには野良猫が複数頭います。2016年夏に、怪我をした猫(親猫)をみかけました。自動販売機近くでも複数の仔猫が生まれていました。そのままにしておくことはできないと思い、野良猫の繁殖をふせぎ、適切な管理を行うことで不幸な猫をなくすためのボランティアグループを結成しました。今では学部・学科の隔てなく、毎日、交替で活動しています。

主な活動は構内に暮らす野良猫の不妊手術の実施、仔猫の里親探し、怪我などの治療、餌やりでの体調管理を行うことです。学内外のみなさまの募金のご協力のおかげで、今ではメスの猫全匹の避妊手術を終わらせることができました。

この取り組みは、1年次科目「総合演習」の「秘書科プロジェクト」



大学猫プロジェクト(中央)

の一つとして認められました。また、2年次科目「地域実践演習」では堺市南地域を中心に地域猫活動をされている団体の方々にお話を伺うなど、大学猫を通して多くを学びました。

短期大学部 幼児教育保育学科の保育実習の取り組みについて

学生にとって、一大イベントである“保育・教育実習”は、保育士資格や幼稚園教諭免許を取得するために必修となるので、避けては通れない道です。実習は社会人としての第一歩、現場の保育者の仕事を見習いながら、社会人として責任ある行動をとることを学びます。



■実習の目的

- 子どもをよく知り、理解を深める。
- 保育の現場をよく知り、保育の技術を高める。
- 今後の自己目標を明らかにする。
- 子どもを尊重する心、子どもから学ぶ姿勢を身につける。
- 保育者の仕事を見習いながら、保育者のあり方、子どもの生活について考える。
- 特に社会人として責任ある行動をとることを学ぶ。

社会について 学べる

一年次生夏実習(保育所) 田仲 沙依

今回初めて10日間という長い期間の実習を終えましたが、想像よりも遥かに大変で、体力の必要な仕事でした。0歳児に対する対応では、自身が知識として持っていた内容は、いざ子どもたちを目の前にするとあまり役に立たず、対応に困ってしまうことがありました。

また4歳児のクラスでは、絵本を読む機会があり、担当の先生から「この絵本読んでください」と言われ、子どもたちの目の前に立ち、導入として手遊びをしました。手遊びの種類も少なく、もっと手遊びを知らなければと思いました。折り紙も子どもたちから多く学ぶことができました。次の実習では事前学習をしっかりと、最初から意欲的にどんなことでも質問していくことが課題だと思いました。

子どもたちを 目の前にして実践できる

一年生夏実習(施設) 立石 愛李

今回の実習では、自分から子どもたちに関わっていくことよりも子どもたちから来てくれることの方が多く、自分から積極的に行動し関わっていくことが課題だと思いました。また子どもたちの試し行動^{*1}だということに気付けないこともあって、子どもたちに振り回されてしまいました。次回からは試し行動に気付けるようにして、なぜこのような行動を取ったのかということ、その都度考えていけるようにしていきたいと思います。

また実習中子どもたちに何度も声掛けをするようにしましたが、もう少し大きい声を出し、子どもたちとたくさんコミュニケーションを取ることが、自身の課題だと思っています。

先生と子どもとの 関わりを見られる

二年次生秋実習(幼稚園) 安倍 愛梨

今回の教育実習を終えて、課題はもう少し子どもの様子を見守ることの大切さだと気付かされました。現場の先生方は昼食中でも連絡帳を書いている際にも、自分の仕事を行っている際にも、いつでも子どもたちの様子に目を向けており、そのことが保育者にとってとても大切だということが解りました。

もう一つは仲立ち^{*2}です。その場面をみて判断するのではなく、普段の様子や性格など様々なことを踏まえた上で、仲立ちできる様になることが課題です。保育者になった際には、今回の実習を生かし役立てたいと思います。

実習を通してどんな保育士になりたいのか、施設や保育園・幼稚園どちらに勤めたいと思ったのかなど、具体的な将来像について語る事も大切なポイントです。実習に行き、自分の反省すべき点が見つかったら、まずはその改善点をどうやって直すのか計画を立ててそれを明記する事が重要です。大変ですが、その分楽しいことや嬉しいこと、学べることがたくさんあり、これからの自分にとって大きな力となるでしょう。

※1 子どもがわざと大人が困るようなことをして、大人の反応を見ようとする行動をさします。こうした試し行動は、2歳前後のイヤイヤ期以降に始まることが多く、大人に反発する行動と間違われやすいのですが、試し行動は子供の反発行動とは全く異なる、愛情確認行動です。

※2 子ども同士のぶつかり合いが多くなります。子どもの行動には理由があることを理解し、両者の欲求を受けとめ、仲立ちをしながら、他の子どもとの関わり方を知らせていきます。





キャリアデザイン授業風景



中1 E-Act

学習指導要領改訂と高大接続改革 に対する本校の取り組み

校長 内海 伸晃



人工知能が進化して、人間が活躍できる職業はなくなるのか。今学校で教えていることは、時代が変化したら通用しなくなるのではないか。という背景で文科省は学習指導要領の改訂を実施した。目標は「子供達に、情報化やグローバル化など急激な社会変化の中でも、未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に備えることのできる学校教育を実現する。」と明記されている。方向性は「新しい時代に必要となる資質・能力の育生と、学校評価の充実」で、具体的には①学びに向かう力・人間性の涵養 ②知識・技能の習得 ③思考力・判断力・表現力の育生が上げられている。また、【何ができるようになるか】の視点で、「社会に開かれた教育課程の実現」、【何を学ぶか】の視点では「新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科・科目の新設や目標・内容の見直し」、【どのように学ぶか】という視点で「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点からの学習過程の改善」を挙げている。

この改訂の中で、すでに本校が取り組んでいる事例を紹介する。まず、「主体的・深い学び」としては、中学で実施されている卒業論文がある。総合学習の授業で3年間かけて実践している。「自分の関心のある領域を自由に決めなさい。そしてそこからの問いを発見しなさい。」をスタートにサブテーマを作る作業、仮説を作る作業、アウトラインを作る作業を経て、テーマとのキャッチボールをしながら論文を仕上げていく。まさに深い学びである。

次に現在の高校1年から実践している「キャリアデザイン」のカリキュラムである。「自分が関心ある領域に気づき、情報を収集・整理し、新たに探求する課題を発見し、解決に向けて考える。この一連のスキルを身につけ、一人ひとりの適正を社会で役立つ専門知識・技能にまで高める。」を目標にしている。高校1年次では図書館の使い方やインターネットを使いこなす方法を学び、個人の知を協働の場に活かすグループワークと発展する。高校2年次ではクラスの枠を超えて専門分野のゼミを形成し、各自の課題について研究・成果発信を行う。これは長年蓄積された、中学における卒論指導のノウハウが成功につながると考えている。

中学独自の英語教育では英語のコミュニケーション力を育てる目的

で、今年度より「E-Act」のプログラムを実施している。これは英語のみのプログラムで外国人によるグループレッスンである。4日間連続で年1〜2回行われる。今年度、すでに入学早々のオリエンテーリングや、自己紹介、異文化理解が英語で行われた。レッスンの最後には必ずプレゼンが行われ、保護者も見学ができる。文科省が提案している英語4技能に英検と併せて対応して行きたい。また、中学3年次には、福島にある「British Hills英語合宿」がある。British Hillsでの3日間は、英語だけの生活を体験する。海外研修に行くための日常英会話やテーブルマナーなども学ぶ。こうした本校独自のカリキュラムを通して、高校で実施されているカナダやニュージーランドへの中長期留学や、英国語学研修につなげて行きたい。

また、キリスト教学校の精神である「愛と奉仕」の担い手として、様々な企画を実践している。「プール・相馬つながるプロジェクト」では、相馬市の中学生をお招きし、本校生徒との交流を行い、定期的に商店街のパン屋さんと協力し、タルトバザーで得た売り上げをプロジェクトの活動のために用いている。「熊本地震を覚えてのルーテル学院訪問」は生徒の代表者が現地を訪問し、被災地で知り得た情報を全生徒に向けて発表した。文化祭では模擬店の売り上げを支援のために届けた。また「広島平和礼拝への参加」では被爆された方の講演を聴き、地元の高校生と共に、核廃絶の署名活動を行った。「タイ ボランティアスタディツアー」では、毎年、地元の高校生と共に、山奥の小学校に訪問している。生徒達が自ら企画し実施しているプログラムである。問題や困難に立ち向かいながら、地元の高校生・家族などの協力を得、体験していく。そこで得た体験こそ「生きる力」になっている。これらの企画は「学びに向かう力・人間性」が育てられている。

このように、本校では「主体的・対話的で深い学び」は以前から継続して行われている。これに加え、今後はICTの活用や、各教科それぞれの場面で、「学びに向かう力」をどのようにつけていくかを考え、「主体的で対話的な深い学び」の実践が必要とされている。この変化の激しい時代にあって、プール学院独自の社会に開かれた教育課程を構築していきたい。

3年目を迎えた英国1ヶ月語学研修

教務部長 勝見 昌浩

はじめに

英国1ヶ月語学研修は、グローバルチャレンジプログラムの1つとして2015年度より実施している。カナダ1年留学やニュージーランド3ヶ月留学など中長期の「留学」のプログラムに対し、これを「語学研修」と称するのは、夏休みに短期集中で英会話力の向上を目指すことを特質とするからである。

研修地と研修校

プログラムは7月下旬から4週間、英国レスターシャー州のマーケットハーボロという小さな街にある、ブルックハウスカレッジという学校で行っている。マーケットハーボロは、産業革命当時に水運で栄えた街で、カテドラルを中心に円形に広がる街並みが見られ、近くには今も英国伝統のナローボートを楽しめる内陸の港がある。ブルックハウスカレッジは、その街にいくつかのキャンパスや学生寮を構え、現地生徒のミドルスクールのほか、留学生のための語学学校やフットボールアカデミーなども展開する私立学校である。

英語学習プログラム

参加生徒は、ウィークデイの午前中をGESE(Graded Examinations in Spoken English)という英国の英会話学習プログラムに則った授業を受講する。9段階のグレードのうち、多くの生徒がグレード2または3を本校生のみで受けている。内容は、親族の呼称や住空間の表現方法、日付や曜日や季節など時間の表現方法のレッスンが中心で、中学校で学ぶくらいの英語を流ちょうに発話する練習が中心である。決して難しくない英語を会話で使いこなせるようにするのが目標である。全員がみるみる上達し、3週目にある個別面接の検定試験を合格した。また、力のある生徒は途中からグレードを上げ、世界各国から来ている生徒と一緒に学ぶオープンクラスに入り、多くの刺激を受けた。

バディクラス

ウィークデイの午後は多彩なプログラムが用意されているが、その中心となるのは、ブルックハウスに通う高校生が、バディとなって企画してくれるアクティビティである。同世代の女子でまず会話が弾み、話題はスマートフォンやファッションや音楽の話。生徒は英語力の壁を乗り越えてなんとか話したいことを伝えようとし、バディたちもそれを聞いて丁寧に共感してくれる。表現の誤りを修正してくれるりもする。



バディクラス

また、ゲームやケーキ作り、英語劇などをする中で、ふつうの友達としてわかりあってゆく。コミュニケーションが自然に生まれていく、すばらしい場面である。



マーケットハーボロの風景



運河の前で

ホームステイ

ブルックハウスが組織してくれるホストファミリーのもとで、生徒は一家庭ひとりずつホームステイする。小さな街で学校とのつながりも深く、どのホストも親身になって生徒を支えてくださった。生徒のアンケートをみると、最初は単語でYesとしか言えなかったところから終盤には積極的に話せるようになったこと、持参した折り紙やお菓子を話題に交流したこと、やんちゃなホストシスターを苦心しながら叱りつけたこと、などがいきいきとつづられていた。

エクスカージョン

毎週末の小旅行は、研修の大きな楽しみである。訪れた都市は、シュルズベリー、オックスフォード、ノッティンガム、ロンドン。シュルズベリーは進化論のダーウィンの故郷、オックスフォードは『アリス』のルイス・キャロルやチャーチル家にゆかりの地で映画ハリポッターでも親近感があり、ノッティンガムはロビンフッド伝説の地。ロンドンはいうまでもなく、どの場所も英国の歴史や文化について雄弁に語る地である。また、最後にパリで一泊の滞在があり、フランス語を耳にし、さまざまな美術も見ることができた。言葉を学ぶうえでも、感性を磨くうえでも貴重な体験であった。

建学の精神に思いをはせる

そして、この研修で最も大切にしたいことのひとつが、シュルズベリーでのアーサー・ウィリアム・プール主教の墓参である。街の郊外の広大な墓地の一隅にある墓碑を探しあてる。道案内をしてくれたのは2年連続でこの研修に参加しているリピーターの生徒である。そこを丁寧に清掃し、聖歌を歌い、祈りを捧げる。学院の始まる時の思いをはせる。参加した私たちの心が、一つのことを見つめる。この礼拝を生徒とともに受け継いでいくことに、大きな意義を感じる事ができた。



プール主教の墓碑の前に

生徒メッセージ

全国中学校・高等学校 ダンスコンクールに出場して

高校創作舞踊部部长 高校Ⅱ年B組 牧之瀬 詩

高校創作舞踊部は11月に東京で開催された「第70回全国中学校・高等学校ダンスコンクール」に出場しました。創作舞踊部の活動としては初めての試みです。今回は絵本『百万回生きたねこ』を題材にした作品で、猫の心情を私たちにおきかえて表現するところがとても難しかったです。この作品は昨年3月の大会と8月の全国大会で賞を頂いており、その度に作品の手直しと踊り込みを繰り返した、とても思い入れのある作品です。練習をはじめた頃は動きが難しく、なかなか上手く踊れなかったのですが、一人一人の努力とチームワークでより良い作品になっていきました。しかし、今回の大会の結果は賞には届かず、悔しい思いをしました。本番当日は、十分なウォーミングアップができない中、初めて立つ舞台の感覚さ

えつかめず不安でいっぱいでしたが、その不安がよりよい緊張感となって部員全員の集中力につながり、今までで一番よい出来でした。東京での、この経験は、クラブ全体の大きな進歩となりました。

創作舞踊部の活動には、普段厳しい練習の中で、辛いことはたくさんありますが、全員で一つの目標に向かっていく大きな達成感や充実感があります。また、先生、部員、家族、友達からの応援や支えをバネにいろいろな大会に出場し、たくさんの経験をさせてもらっています。私たちは、感謝の気持ちや、まわりを見て協力することや、努力する大切さを学びました。このような貴重な経験は一人一人の大きな財産となっています。



シリーズ
第26回

活躍する
卒業生

河内長野市消防署 警備第3課 本署 救急第3係
熊野 理奈さん(第120回高校卒業生)



家族や傷病者に寄り添える救急隊になりたい

小学5年生のとき、大好きな祖父が目の前で倒れて痙攣を起し、祖父の近くで泣くことしかできなかった私に、「もう大丈夫。心配しなくていいよ。助けるからね。」と仰ってくださった救急隊の姿を忘れることができず、不安で押しつぶされそうな家族にも寄り添える救急隊になりたいと思いました。

数少ない女性消防士という職業の厳しさを理解しているからこそ、当初、家族には反対されていましたが、どうしても夢を諦めきれ



ませんでした。高校の授業で将来の夢を発表する場があり、多くの友人が真剣に耳を傾けてくれ、応援してくれたことが私の中で強い支えになりました。挫けそうとき、落ち込んでいるとき、嬉しいことがあったときには必ず連絡をくれ、大事な試験があるときはお手製のお守りを作ってくれたこともありました。年数が経った今でも、近況報

告をしたり、将来の話を気兼ねなくできる彼女たちに出会えたプール学院での生活があったからこそ、今の私がいまいます。間違いなく、学校で過ごした6年間はかけがえのない財産となっています。

河内長野市消防本部で救急隊として働くこととなり、まだまだ自分自身のことで精一杯だった私には、家族や傷病者に寄り添うことはおろか、気の利いた言葉さえもかけることができていませんでした。救急車を呼ぶ方の中には、「なぜこれぐらいの怪我で」「家族が連れて行けるのに」という救急も実際に多く、寄り添える救急隊になりたかったはずなのに、現実には正反対でした。しかし、気持ちに余裕が持てるようになった頃、消防署見学に来ていた幼稚園生や小学生に救急隊になった理由を聞かれ、話をしているうちに自分になりたかった救急隊の姿を思い出しました。以来、相手がどんな気持ちで救急隊に頼ってきているかをまずは理解し、声をかけることを心掛けてきました。憧れとなっているあの救急隊の背中はまだまだ遠いですが、幼い頃の私のように、不安で押しつぶされそうになっている家族や傷病者がいることを忘れず、少しでも寄り添えるよう頑張っていきたいと思います。

クラブ等の成果

〈団体の部〉

中学演劇部

- 第137回中学生演劇祭6.18 **優秀一席 大阪府議会議長賞**

中高校吹奏楽部

- 大阪府吹奏楽コンクール中地区大会7.31 **金賞 中地区代表**
- 大阪府吹奏楽コンクール8.12 **銀賞**

中学ソフトボール部

- 第20回大阪私立中学校総合体育大会ソフトボールの部7.16 **第3位**

〈個人の部〉

陸上競技部

- 大阪総体3・4地区予選会7.22-23
II年ハンマー投 5位 II年円盤投 5位 山本乃愛 (II)
I年ハンマー投 5位 犬飼舞雪 (IH)
- 第36回近畿高等学校総合文化祭放送文化部門11.23
朗読小部門 奨励賞 稲田 緋奈 (IIF)

高校美術部

- 第30回私学写生大会5.28
奨励賞 玉岡那菜 (IIF) / 尾白安里 (IG)
- 第66回大阪私学美術展7.30
優秀賞 玉岡那菜 (IIF)
奨励賞 中西萌菜 (IIA) / 白松桜子 (IB) / 軽澤萌垂 (IE)
- 第37回近畿高等学校総合文化祭11.18
奨励賞 玉岡那菜 (IIF)

高校創作舞踊部

- 全日本高校・大学ダンスフェスティバル8.10
準入賞 吉永茜 (III A)

高校生花同好会

- 第30回大阪地区学生いけばな競技会
優秀賞 下村華世 (III D)
準優秀賞 林田夏菜 (III A)
佳作 杉本真友希 (III A)

中学放送部

- 第34回NHK杯全国中学校放送コンテスト大阪大会7.9
アナウンス部門 最優良朗読部門 優秀 岡田羽叶 (3C)
全国大会大阪府代表
- 第34回NHK杯全国中学校放送コンテスト全国大会
アナウンス部門 入選

中学美術部

- 第50回私学写生大会5.28
奨励賞 高篠彩香 (3A) / 岩森彩乃 (3B) / 松田みのり (2B)
- 第66回大阪私学美術展7.30
優秀賞 (2点) 岩森彩乃 (3B)
奨励賞 高篠彩香 (3A) / 岩本莉穂 (3C)

中学卓球部

- 大阪市中学校第5ブロック卓球大会8.9
2年生シングルの部 準優勝 三枝真綾 (2C)

中学器械体操部

- 大阪市中学校秋季総合体育大会体操競技の部10.7
女子種目別跳馬 第3位 生駒あずみ

- 第13回大阪私学中学校英語暗唱・弁論大会10.28
弁論の部 第2位 江崎さくら (3B)
- 「神戸女学院の100冊」書評コンテスト11.3
最優秀賞 徳川真椰 (II G)
佳作 上川未紗 (IIF)

主な行事

7月

～11日	期末考査
11日～29日	高Ⅲ夏期講座
12日～17日	高Ⅱ修学旅行 (シンガポール・マレーシア・インドネシア)
25日～8月19日	高校 英国1ヶ月語学研修
26日	終業の日
28日～8月3日	タイ ボランティアスタディツアー

8月

21日	高Ⅲ授業開始 中1特進GCリトリートキャンプ
21日～24日	中学一貫・高Ⅲ一貫SアDS文理選特勉強合宿
26日	始業の日
30～31日	実力考査

9月

2日	同窓生対象入試説明会
5日	中高鑑賞の日(ミュージカル「レ・ミゼラブル」)
22日	文化祭

10月

12日～18日	中間考査
16日～18日	中3 British Hills 英語合宿
19日	中・高Ⅲ遠足
22日	中学入試プレテスト
25日	宗教講話
27日～31日	韓国・崇徳女子中高訪問
28日	漢検(中全員受験・高)

11月

4日	高校オープンスクール 芸術実技講習
11日	中学入試説明会
14日	中学合唱コンクール
17日	収穫感謝礼拝 高校入試説明会 芸術実技講習
18日	大阪府内女子中学生英語暗誦大会
20日	中学授業参観
23日	高校入試説明会
24日	中3 卒業論文提出日

12月

2日・9日	高校入試説明会 芸術実技講習
4日～8日	期末考査
8日	中2バルナバ病院思春期教室
9日～27日	高Ⅲ冬期講座
15日	クリスマス礼拝
20日	終業の日 中学入試説明会 キャンドルライトサービス

中学校・高等学校

「聖書と私」

国語科教諭 東良 恵利

「イエスはお答えになった。『医者が必要とするのは、健康な人ではなく病人である。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである。』」

(ルカによる福音書:5:31~32)

私は、高校時代をプール学院と同じようなミッションスクールで過ごしました。3年間の学校生活の中では同じように毎朝礼拝がありました。

多くの生徒達と同じように、この学校に通うまでの私は、キリスト教とは縁のない環境で育ちました。そして同時に、かなり厳しい父親のもとで毎日を過ごしていました。実のところ、私は今まで1度も父に褒められた記憶がありません。幼い頃からずっと私は父から「完璧」を求められていました。テストで満点を取った時でも「習った内容なのだからできて当たり前だ。」と言われていたのを覚えています。高校や大学や大学院を受験し、合格したときも1度も「おめでとう」とは言ってくれませんでした。父が1番だと思っていた学校ではなかったからです。

当然のことですが、子供の頃の私は、そんな父の影響をとんでも強く受けて成長しました。私には2歳下の妹がいます。勉強や習い事などで結果を出すのが苦手なタイプで不器用なタイプの彼女を、父や母がことあるごとに褒め、励ましている場面を小さい頃からよく見ていました。そんな環境でしたので、私は「この家の長女として、姉としていつもきちんと結果を出し、自分の役割をこなすことで両親や世間に受け入れられるのだ」と思うようになり、家の中でもいつも緊張していました。

そんな生活の中で、高校に入って間もなくの春、朝の礼拝でこの聖句に出会いました。そして、お話しされた先生が「神さまは、失敗ばかりする罪深い私たちをこそ愛して下さい。」と仰いました。その時の驚きを、私は忘れることができません。お話を聴きながら「『罪人』つまり、悪い、ダメな人間であることがはっきりしているのに、そんな人間を、いや、かえってそれだからこそさらに招いて愛して下さる存在って本当にあるのかな?」と考えました。その時、胸に何か「チクッ」と小さなトゲの存在を感じたような、心の中の氷が少し溶けるような不思議な感覚があったのを今でもはっきりと覚えています。今、ふり返ってみるとそれは、神さまが淋しい私を見つけ、そっと手をつないで下さった瞬間なのだと思います。

今の学生達も様々なことで悩んでいます。おそらく、時代変化の速度が増し、価値観が多様化する現代の方が、悩みはさらに多く深刻なことでしょう。失敗や不安や挫折を感じることの多い青春時代を生きる彼女たちと接しながら、この聖句を思い出して「神さまが私にして下さるように、生徒へも同じまなざしを向けることのできる教師とならせて下さい。」と日々神祈りながら毎日を過ごしています。

大学・短期大学部

三人の博士

チャプレン 松平 功



クリスマスの季節になると、「プレゼピオ」と呼ばれる馬小屋の模型が飾られる。そのプレゼピオには天使たちに囲まれた聖家族の人形が置かれる。そして、聖家族の周りに東方の「三人の博士」が配置されるのが定番である。東方から「三人の博士」が、幼子イエスを拝みに来たという聖書の物語がその背景にある。さて、この博士たちという名称は単なる通名で、聖書では「占星術師」(ゾロアスター教の説あり)となっている。しかも、三人だったことも記載されていない。三人の根拠は彼らの持ってきた贈り物が、黄金、乳香(にゅうこう)、没薬(もつやく)の三つだったからだろう。そして、この三人の博士については、後々に様々な事柄が付加されていった。聖書には彼らの個人名は記載されていないが、後の伝説ではメルキオール、カスパール、バルタザールという名がつけられ、さらに三人はそれぞれ老人、若者、中年であったという年齢設定も付け足され、しかもそれぞれヨーロッパ人、アジア人、アフリカ人だったという民族系統までもが加えられていった。想像力のたくましさには脱帽する。しかし、これは全く無意味な創作であるとは言えない。なぜなら、東方の占星術師の物語を聖書が描いたのは、イエス降誕の出来事自体が民族や宗教を超えて全人類に救いが与えられるというメッセージであるからだ。

三人の博士の物語はキリスト教徒にすこぶる愛されるようになり、フランスでは博士たちが幼子イエスを拝謁したとされている1月6日には、その記念として「ガレット」というお菓子が食べられるようになっていった。現在日本でも売られている「ガレット」は「三人の博士」を意味する。また、驚くことにドイツのケルン大聖堂には、三人の博士の遺骨を納めた黄金の棺が安置されているようである。これは少しやりすぎの感は否めないが、その物語に込めた思いを大切にすることは悪いことではない。また、キリスト教以外でも、三人の博士は使われているようである。面白いことに映画にもなったアニメ「新世紀エヴァンゲリオン」に登場するコンピューター

の名称が「MAGI」で、これは三人の博士を英語にした言葉である。そして、サブコンピューターの名がそれぞれメルキオール、カスパール、バルタザールなのである。ここまで来ると意味不明である。





半期活動報告

一般社団法人POOLE理事長
鈴木 光子 (高73回・小柴)



いつも同窓会をお支下さっているすべてのみなさまに感謝致します。5月の社員総会を経て新しい2年の期がはじまりました。一般社団法人格を持つ同窓会としてどのように社会に貢献出来るかが大きな課題です。

同窓会館では月に1回、社会ボランティアのグループが同窓生から寄せられた使用済み切手の整理、布を裁断してウエスにし、近くの老人施設に送ること、施設を訪問して一緒に歌を歌うことなどを長く続けています。企画委員会では同窓生の親睦を図り学ぶプログラムを工夫しています。広報委員会はホームページやフェイスブックを通して情報を発信しています。9月9日には賀寿祝福礼拝を行い、還暦・古希・喜寿・傘寿以上の方が100名近く集い杉山修一理事長、成岡宏晃チャプレンから祝福を受けました。(後述記事参照)

私たちは学院で受けたキリスト教の精神を大切に、愛と奉仕の心で歩みたいと思っております。

2017年度 クラス代表者会 開催報告

常任学年代表委員会委員長
桑平 麻由子 (高86回・桑村)



11月18日(土)にプール学院ラウンジにて「2017年度クラス代表者会」を開催いたしました。あいにくの雨天にもかかわらず70名を超える各卒業回(69~126回)選出のクラス代表者の方が集いました。今回は議案・議事はなく、桜井プール学院法人事務局長より高等学校・中学校の近況や、大学・短大についてのご報告、鈴木光子理事長より同窓会の活動等についてのお話がありました。その後、企画委員会からオープンハウスデーについてのご意見・アイデア募集のお願いがあり、アンケートが配布されました。引き続き、広報委員会・社会ボランティアの会・ミヅパ会・常任学年代表委員会からの報告



で第一部は終了し、第二部では、「画像でつづるプール学院の歴史」のスライドと「プール学院紹介ビデオ(2016年制作)」を見ながら、母校の沿革と各時代の学生生活を振り返りました。

室戸台風殉難者記念礼拝

広報委員会



2017年9月21日の様子

2017年度 ミヅパ会総会・ ホームカミングデイの報告

プール学院大学同窓会ミヅパ会会長
五十嵐 よし子 (高84回・短英26期・佐藤)



設置者変更により2018年3月で22年間のプール学院大学(四年制)の教育が閉じられることになりました。歴代の学長に繋がれた「建学の精神」を思い、ミヅパ会総会とホームカミングデイを2017年10月28日(土)に榎塚台キャンパスで開催いたしました。

当日は台風22号接近の雨天でしたが、会員出席のもと礼拝・総会と進み協議事項の承認を得ましたので一部ご報告いたします。

2018年4月以降の母校変更に伴い、大学同窓会ミヅパ会の名称変更、会員構成変更、事務所場所変更等の会則改訂や会計等が承認されました。また、プール学院理事による「学院からの報告」には、卒業生から4月以降の短期大学についてやプール学院大学で取得した学士号についてなど様々な質問が出ましたが、それぞれ答えを得、同窓生に対しても在学生と同様に今後も真摯に対応していただけることを確認する貴重な時間となりました。(詳細 <http://poole-mizpah.jp>)

引き続き行われたホームカミングデイには、多くの懐かしい先生方やお子様連れの卒業生が集い時の流れの速さ、時代の移り変わりを感じる感慨深い母校でのひと時でした。

今後とも変わるミヅパ会へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。



第4回 賀寿祝福礼拝 開催報告

広報委員会

2017年9月9日(土)爽やかな秋空のもと午後2時より勝山キャンパス・清心館において「第4回賀寿祝福礼拝」が無事執り行われました。還暦(60歳)52名・古稀(70歳)15名・喜寿(77歳)1名・傘寿(80歳)以上30名、計98名の皆様にご参加くださり荘厳な奏楽の中、礼拝が始まり、杉山修一プール学院理事長・学院長、成岡宏晃中高チャプレンよりお一人おひとりに祝福をいただきました。その後場所を学院地下カフェテリアに移し、旧校歌を唄い、ささやかながら茶話会を楽しんでいただきました。



プール学院大学の 桃山学院への継承について[2] ～プール学院と桃山学院～

学院報84号で、学校法人プール学院と学校法人桃山学院が、2016年12月に締結をした、設置者変更にとまなう基本合意に関する内容および、近々の関係(双方での包括協定他)等につきましてご報告をいたしました。今回は、すでにホームページ等でお知らせをしておりますが、その後の進捗等と2018年4月からの状況につきまして、ご報告をさせていただきます。

■ 桃山学院との協議

2016年夏から、双方の理事長等による協議会を発足させて、2週間に1回の会議を持ち回り(プール学院の泉ヶ丘キャンパスと桃山学院の和泉キャンパス)で行っており、2018年1月まで、約35回の会合を行っております。そこでは、文科省や関係方面への申請文書内容、2018年4月からの学生生活や研究活動をはじめ、クラブ活動・学園祭、同窓会や後援会の在り方、また現在の「プール学院前」というバス停の名称等々ありとあらゆる事柄についての協議を行い、4月からの継承が順調に進み、プール学院短期大学と桃山学院教育大学で学ぶ学生にとって、教育環境と学生生活がトータルで向上することを目指しております。

また、桃山学院教育大学の学長就任予定者である梶田叡一先生とプール学院短期大学の次期学長である作野理恵先生の間でも、2018年度から同一キャンパスに共存する大学として、連携内容を検討しています。

■ 文部科学省への申請と認可の通知

一昨年秋より、双方で文部科学省との事前相談を重ねて、昨年3月末に設置者変更の申請書類を双方で文部科学省に提出いたしました。6月には面接審査が行われ、その後も追加の書類等が求められましたが、2017年8月29日付で文部科学大臣から設置者変更が認可されました。



泉ヶ丘キャンパスの
いづみチャペルにて
作野理恵(プール学院短期大学
次期学長)と梶田叡一(桃山学院
教育大学学長就任予定者)

■ 学生と保護者の皆様へ

学生・保護者の皆様へは、文書でまたご参集(保護者の皆様には、平日の夕方や土曜の午後他)をいただく等いろいろな方法で、経緯等の説明会を何度も行ってきました。特に2017年3月・4月に行いました学生・保護者の説明会では、学校法人桃山学院の出田理事長からもお話をいただきました。

■ 校名等について

プール学院大学は、学校法人桃山学院が運営する2つ目の大学として、「桃山学院教育大学」となります。プール学院大学短期大学部は、「プール学院短期大学」の名称となり、学校法人プール学院は、キリスト教女子教育を行うべく、今後も、堺市南区槇塚台ではプール学院短期大学、大阪市生野区ではプール学院中学校とプール学院高等学校を運営します。

■ 卒業証明書等について

プール学院大学の卒業証明書をはじめ各種の証明書発行等申込方法につきましては、決定次第、ホームページに掲載する予定です。なお、短期大学の卒業生については、従来どおり、プール学院大学短期大学部(4月からプール学院短期大学)で発行します。また、現在の電話番号は、4月からはプール学院短期大学専用の電話番号となります。桃山学院教育大学の電話番号は決まりしだい、ホームページ等でお知らせをいたします。

■ 短期大学学長人事

理事会は、蔵田實(蔵田)大学・短期大学部学長の2018年3月31日付け任期満了に伴い、作野理恵教授(現副学長)を次期短期大学学長予定者として決定しました。

■ 教職員

〈新任〉-2017.10.1付-
*大学・短大
職員(常勤管理職嘱託)
荒芝 啓太

■ 訃報

- 岡本 克己氏
2017.7.26逝去(87歳)
名誉教授
1999.4.1~2001.3.31 大学教授
ご在職中のお働きを覚え、つつしんで魂の平安をお祈り申し上げます。
- 脇 功氏
2017.12.18逝去(81歳)
名誉教授
1984.4.1~2004.3.31 大学教授
- 井上 義祐氏
2017.11.25逝去(85歳)
元大学・短期大学部学長、理事、常務理事、評議員、名誉教授
先生は、2002年4月に大学・短期大学部の学長に就任、2006年3月に退職されました。先生のご功績とご人徳を偲び、つつしんで魂の平安をお祈り申し上げます。